高田川新聞

2018年4月30日
発行者
高田川部屋後援会事務局
〒135-0024
東京都江東区清澄2-15-7
www.takadagawa.com

大相撲　五月場所
平成30年5月13日より
15日間
於 両国国技館

白鷹山　十両昇進！

三人目の関取誕生

平成三十年の春場所は、白鵬、稀勢の里が休場したものの、一人横綱として臨んだ鶴竜が初日から十一連勝と優勝争いを牽引し、四回目の賜杯を手にした。高田川部屋勢は、上位者がほぼ勝ち越して、初場所同様十二名が勝ち越し。中でも、白鷹山が六勝で悲願の新十両を決めた。

幕下東の筆頭。四勝でも勝ち越しさえすれば十両に上がれる地位。しかし、二年前のことが頭をよぎる。十両昇進は秒読みに思えた同じ地位で二勝止まり。初の十両との対戦も三戦三敗。次の場所も二勝しかできずにコツコツと積み上げてきた番付を幕下二十七枚目まで下げた。原因は急性の糖尿病。気づいた時には体重が一気に四十キロも落ち、力が出ない、入らない。そこから大好きだったジュース類も一切やめ、体のことを考えながら少しずつ体調を整えていった。力任せの相撲から考える相撲も取る。二年がかりで再び掴んだ関取へのチャンス。今度は落ち着いていた。初日、新十両人気の炎鵬戦。前回の対戦では潜られて敗れたが、中に入られないようによく見て前へ前へ攻める。土俵際、腕を手繰られてもついていき、最後は圧しかかるように土俵に押さえつけた。絶対勝ってやる、そんな気迫が感じられた一番だった。自己最高位で圧巻の六連勝。そして幕下優勝のかかった最終戦。相手は幕下五十三枚目といえども元十両の肥後ノ城。この日だけは緊張した面持ちだった。懐に入られ、あっさり土俵を割る。実は、輝の付け人として西の支度部屋で対戦相手と同じになり、周囲の雑音に集中力を欠いたからだった。

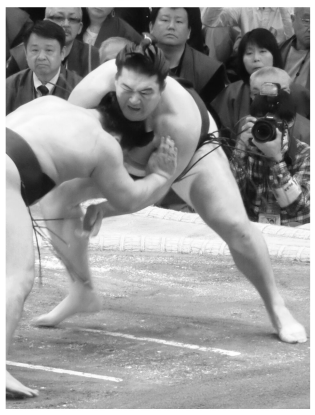
師匠も認める天賦の才。しかし、それだけで勝ち続けることはできない。できない時に人は初めてもっともっと努力する。白鷹山が幕内の兄弟子以上に努力した時、鬼に金棒、本当に最強の関取が誕生する。「幕下でできなかった優勝を十両でしたい」と息巻く重戦車の、十両での活躍に期待したい。

竜電　執念の勝ち越し

竜電は初日、白星スタート。先場所の敢闘賞の勢いかと思われたのもつかの間、そこからはまさかの五連敗。さすが幕内、きっちりと研究してきている。勝ち急いでいたかもしれない。そう気づいた竜電は、逆に長い相撲を取ってみようと土俵に上がった。すると相撲がよい方向に向き始めた。七日目の石浦戦に反応よく勝ち、中日の北勝富士戦では、長い相撲の末、持久戦を征した。魁聖、阿炎には敗れたが、十一日目から不戦勝を含むも怒涛の五連勝。特に勝ち越しを賭けた千秋楽の朝乃山戦では、相手十分の形になられながらも粘りに粘って勝ち越しをもぎ取った。執念の勝ち越し。気迫が勝った一番だった。これで昨年の五月場所から一年間連続の勝ち越しを決め、通算でも区切りの三百勝。まだまだ取り組むべき課題はたくさんある。夏場所では五年ぶりに高田川部屋最高位。焦りの気持ちを消し、自分の力強い相撲を全面に出して初の三役を狙う。

輝の新しい挑戦

輝は黒星スタートしたものの、序盤は三勝二敗と白星先行。しかし、中盤三連敗。終盤も二勝三敗として、結果七勝八敗と一つ勝ち越しに届かなかった。だが、二日目の隠岐の海戦、今までとは一味違う輝を観た。元々、突き押しの輝が突いて起こして中に入る相撲で寄り切ったのだ。十日目の大翔丸戦でもその姿はみられた。錦木戦では不発に終わったものの、確実にそういう相撲を意識しているように思えた。関取に上がり番付が上がっていく中で、突きだけでは勝てないということは輝本人も感じていた。ようやく次のステップへ踏み出した。まだまだ完成とは言えないものの、隠岐の海戦での戦い方が三役やその上を目指す輝の、新しい活路になるかもしれない。ここ数年ずっと後ろを歩んできた兄弟子の竜電に三賞だけでなく番付でも先を越された。「三役だけは自分が先に上がる」この熱い思いを胸に、悔しさをバネにしてより進化し続ける輝の姿を見せてほしい。



理想の形が生まれている。「（弟子の）湘南乃海に追い上げられてお尻に火が点いた」と白鷹山は言った。そして、湘南乃海は「次は自分の番」と十両昇進を誓う。大相撲の世界では優勝決定戦以外は本場所での同部屋対決はない。三年ぶりに三人の新弟子も加わり、食住稽古を共にする兄弟弟子が切磋琢磨しながら、先に上がった関取衆を追随していく姿を見守りたい。

関取を追随

白鷹山が十両に上がり、代わって大野城が四場所連続勝ち越しで幕下へ再昇進。夏場所も幕下は、湘南乃海、安芸の花、安芸乃山と共に変わらずの四名。一人上に上がって、一人下から上がってくるという、部屋として

＜新弟子紹介＞

藍　松ヶ島

昨年11月入門の天惠に続き、高田川部屋に二人の新弟子が入門した。一人目は、この2月に中学校を卒業したばかりの池田純也。相撲経験はなかったが、中1の頃から高田川部屋に5度も体験入学をし、髪も伸ばしながら卒業と同時に上京。小6まで過ごした島根県松江市の「松」と中学時代を過ごした静岡県島田市の「島」を取って四股名も松ヶ島に決まった。もう一人は、高校時代はウエイトリフティングをしていた髙原魁成。高校の部室に貼られた高田川部屋のチラシを見て応募してきた。四股名は、出身地の藍住町の一字をもらい藍（あい）となった。就職場所とも言われる春場所。新弟子43名（うち1名は三段目付け出し）で戦った前相撲では二人とも二勝を挙げ、九日目には目標とする二人の幕内兄弟子の化粧まわしをつけ新序出世披露。関取目指して、この五月場所から序ノ口力士となる。何卒応援の程よろしくお願いいたします。

「松ヶ島」本名：池田純也（平成14年9月19日生）
身長：173cm、体重：120kg、静岡県島田市出身
「藍」本名：髙原魁成（平成11年1月30日生）
身長：175cm、体重：100kg、徳島県板野郡藍住町出身

白鷹山　新十両昇進祝賀会のお知らせ

5月6日(日)午後5時開宴、ホテルニューオータニ東京で白鷹山の新十両昇進祝賀会を行います。
是非とも皆様のご出席をお待ちしております。
出席ご希望の方は、式守勘太夫 090-3215-6524まで住所、氏名をショートメール、またはお電話にて急ぎご連絡ください。

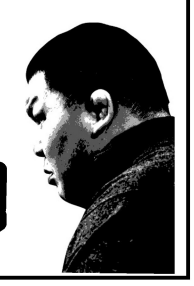
※表記の番附は正式発表前の予想

幕内	竜電	先場所 8勝7敗	○●●●●●○○	前半戦は少し勝負を焦って連敗したが途中から長い相撲を取ろうと意識したらいい方向に向いた。下半身をより強化し力強さを磨いて自分十分相手不十分の体勢を作る。
〃	輝	先場所 7勝8敗	●●○○●●●●	十番は勝てると思い臨んだが悔しい七番負け越し。組んでからの安定感は出てきたので特に当たってからの課題である自分が安心できる形になるまでの速さを増したい。
十両	白鷹山	先場所 6勝1敗	○○○○○●●	六連勝できたが勝ちを意識し過ぎて優勝を逃して悔しい。十両では十五日間取ることだけは意識してガンガン前に出る攻めの相撲で優勝めざして頑張りたい。
幕下	湘南乃海	先場所 4勝3敗	○●○○○●●	勝ち越せたが相撲内容が全然よくない。もっと下半身を大きく強くして前に出る力をつけ次は自分が関取になる。
〃	安芸の花	先場所 5勝2敗	○○●●○○○	五勝できたことは嬉しかったが満足はない。基礎をしっかり。そして基礎と共にさらに稽古をしっかりやるのみ。
〃	安芸乃山	先場所 4勝3敗	○○●○●●●	なんとか勝ち越せたが下半身を鍛えて対応力をつけたい。もっと自分に合った相撲を研究しながら稽古していく。
〃	大野城	先場所 4勝3敗	●○○○●●○	前半戦は良かったが後半に小兵力士に連敗してしまった。勝つことばかり拘らず速い攻めで自分の相撲を取りたい。
三段目	大乗	先場所 4勝3敗	○○○●○●●	もっと立ち合いを素早く、中に入って先に攻めることを意識して幕下へ上がれるよう続けて勝ち越したい。
〃	大雷童	先場所 4勝3敗	●●○○○○●	自分の相撲を見つめ直し自分を信じて土俵に上がれるよう基礎運動に励んで最年長三段目優勝を目指したい。
〃	恵比寿丸	先場所 4勝3敗	○○○●○●○	勝ち越せたが勝った相撲も前に出ていなかった。内容よく得意の右四つで勝ち越して自己最高位更新したい。
〃	須磨ノ海	先場所 4勝3敗	○●●○○○●	大阪場所は勝ち越せたので続けて勝ち越せるよう、ここ一番で勝てるメンタルも含めて自分の相撲を磨きたい。
〃	剛力山	先場所 4勝3敗	○●●○○○●	前に攻める相撲で連続勝ち越しできた。下半身を強化して強い立ち会いからの流れから攻める相撲にしていきたい。
〃	勝武士	先場所 3勝4敗	●●●○○○●	三連敗から三連勝できたが負け越しては話にならない。実戦で使える相撲を磨き、本場所の土俵で強くなりたい。
〃	暁	先場所 休場	ややややややや	相撲が取れず寂しかった。順調に回復しているので、復帰に向け、気持ちを切らさずリハビリを頑張りたい。
序二段	前乃富士	先場所 3勝4敗	●●●○●○○	先場所は不甲斐ない成績だった。下半身の強化と柔軟性のある動きができるようにして全勝目指して頑張りたい。
〃	前大将	先場所 4勝3敗	●○●●○○○	怪我の恐怖に勝てず前半が悪かったが後半盛り返して勝ち越しできた。相撲だけに集中して次も勝ち越したい。
〃	櫻	先場所 1勝6敗	●●●○●●●	勝てそうな相撲も詰めが甘くて負けてしまった。立ち合いを見直し、しっかり最後まで取りきって上の段をめざす。
序ノ口	天惠	先場所 1勝6敗	●●●○●●●	序二段で大きく負け越してしまったが立ち会いで相手の相撲に合わさず、まっすぐ頭から当たるようにしたい。
〃	藍	先場所 前相撲		今場所は初めて番付に名前が載るので本当のスタート。しっかりと頭から当たり物怖じせず相撲を取りたい。
〃	松ヶ島	先場所 前相撲		あまり突っ張れず腰も高かった。当たる時に顔が逃げないよう直したい。まずはしっかり四股をやっていく。

三役行司　式守勘太夫の目

ついに白鷹山が十両昇進。過去、大関になった小錦関、把瑠都関、そしてその後も他国出身の力士には「絶対に大関・横綱に上がる」と、爆発的強さをみせる猛者がいる。白鷹山は日本人でそんな印象を抱かせる数少ない力士のように思う。まともに渡り合えば誰も勝てないと思わせる天性の素質。但し、前者の諸先輩たちは幕内三役に力任せに勝つことで腰や関節に大きなダメージを負い、結局は志が全うされることは少なかった。白鷹山は膝のケガを早い時期に経験し、また二年前の急性の糖尿病を乗り越えた。入門七年での早い昇進。何もなければ四年で上がっていただろう。だが、余分にかかった三年が白鷹山を成長させたはず。まず、初日の、小兵・炎鵬との相撲。作戦通り、相手のオデコをめがけて激しく重い突っ張りをヒットさせながら押し、今までにない基本通りの堅実な攻めで十両昇進の足がかりとした。ただ、千秋楽、四つに持ち込まれて反り返って敗れてしまった。これは白鷹山が一生取ってはいけない危険な相撲と師匠に指摘された。幕下優勝賞金は逃したが、飛躍の糧となる授業料を払った。

高田川親方の喝！



竜電は一勝五敗の苦しいところから踏ん張ってよく勝ち越した。これで一つ力がついた。輝は、負け越したが得るものがあった。今場所どういう相撲を取ってくれるか楽しみだ。二人とも稽古場では十分力がついているがその力を本場所で出しきれていない。上に上がるためにはもっと稽古して本場所でも勝てる力をつけるしかない。白鷹山がケガ・病気を乗り越えてようやく十両に上がることができた。能力からいったら少し遅かったと思う。十両昇進のかかる先場所、六連勝から最後の一番で負けるところがこの男らしい。しかし、その負けたことを今場所十両の土俵で活かし、奮起してほしい。部屋の者はもっともっと稽古して頑張り抜いて、これに続け。

＜ご案内＞
高田川部屋 千秋楽祝賀会
平成30年5月27日(日) 午後6時30分 開宴
※ 会場は、南国酒家・原宿本店にて
(会費制、別途ご案内致します)
各お問い合わせ・お申込み ／ 行司 式守勘太夫 まで
電話 090-3215-6524